

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果

平成27年1月9日
下野市教育委員会

1 はじめに

下野市教育委員会では、平成26年度の全国学力・学習状況調査の概要について、第一段階として、9月2日付けで速報をお知らせしました。

今年度も第二段階として、下野市全体としての結果を分析し、公表いたします。

各学校や御家庭におかれましては、この分析結果を今後の学習指導の工夫改善や児童生徒の学習意欲、学習習慣の向上に役立てていただきたいと思います。

2 下野市全体の傾向

(1) 学力調査の結果より

① 学力調査について

学力調査	下野市		栃木県(公)	全国(公)
調査対象	小学校 12校	590人	※17,592~17,598人	※1,080,442~1,080,663人
人数内訳	中学校 4校	600人	※16,799~16,812人	※1,017,965~1,018,365人

※国語A・B、算数・数学A・Bそれぞれで参加人数が異なるため

- A問題(主として「知識」に関する問題)
- B問題(主として「活用」に関する問題)
- ◇国語A・Bの領域等 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

※国語は小学校、中学校共通

- ◇算数A・Bの領域 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」
- ◇数学A・Bの領域 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」

② 全体比較

平成26年度全国学力・学習状況調査(学力調査)結果

下野市と全国平均正答率との比較【H19～26全体比較】

※H23、24は抽出調査

◎大きく上回っている(5ポイント以上)

○上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

－同じ(±1ポイント未満)

▽下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)

▼大きく下回っている(5ポイント以上)

	小学校						中学校					
	H19	H20	H21	H22	H25	H26	H19	H20	H21	H22	H25	H26
国語A	○	○	○	○	○	▽	◎	○	○	○	○	○
国語B	◎	○	○	－	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
算数A	○	○	－	○	○	－	◎	◎	◎	◎	○	○
算数B	◎	○	－	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

平成26年度の全国学力・学習状況調査の下野市の結果は、全国の平均正答率と比べ、小学校はほとんどの領域で、中学校はすべての領域で、全国平均正答率を上回る結果となった。

【小学校の全国学力調査全体結果について】

小学校は国語B、算数A・Bともに、全国平均正答率を上回っていた。

小学校の今年度の平均正答率を過去5年間（平成19年度～25年度）と比較すると、国語A・Bは下野市、全国ともに3番目であった。下野市の算数Aは、4番目で、算数Bは、平成25年度に次いで2番目であった。全国は算数A・Bともに3番目に高い結果であった。

今年度の市と全国の平均正答率との差を平成19年度～25年度と平成26年度の6年間で全国比を比較すると、国語Aは、2番目に下回っており、国語Bは、4番目に上回っている。算数Aは、一番少ない差で上回って、算数Bは4番目に上回っていた。

全体的には平成19年度から年々全国平均との差が縮まる傾向が見られて、昨年度はその傾向が止まった。しかし、平成26年度は国語Aで下回る等、全国平均をわずかに上回るにとどまった。小学校においては、さらなる学力向上の必要性があると言える。

【中学校の全国学力調査全体結果について】

中学校は数学Bが全国平均正答率を大きく上回り、国語A・B、数学Aが全国平均正答率をやや上回っており、国語、数学ともB問題の方が良好な結果であった。

今年度の平均正答率（難易度）を過去5年間（平成19年度～25年度）と比較すると、国語Aは下野市、全国ともに2番目に高く、国語Bは下野市、全国ともに1番低かった。数学Aは下野市が3番目、全国が2番目であった。数学Bは下野市、全国ともに2番目に高かった。

今年度の市と全国平均正答率との差を過去5年間（平成19年度～25年度）と比較すると、国語A・Bともに最も少なく上回っていた。数学A・Bともに5番目に上回っていた。

全体的には上回ってはいるが、大きく上回っているのは数学Bのみである。今後もさらに基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて努力していく必要がある。

③領域別比較

全国学力調査結果 下野市と全国平均との比較【H26 領域別比較】

◎大きく上回っている（5ポイント以上）

○上回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

－同じ（±1ポイント未満）

▽下回っている（1ポイント以上5ポイント未満）

▼大きく下回っている（5ポイント以上）

小学校国語	国語A	国語B	小学校算数	算数A	算数B
話すこと・聞くこと	○	－	数と計算	－	○
書くこと	－	○	量と測定	○	○
読むこと	－	○	図形	－	○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	▽	○	数量関係	○	－

中学校国語	国語A	国語B	中学校数学	数学A	数学B
話すこと・聞くこと	○	△	数と式	○	○
書くこと	○	◎	図形	◎	◎
読むこと	○	◎	関数	◎	◎
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	○	資料の活用	○	◎

【小学校領域別の全国学力調査結果について】

国語のA問題は、全国の平均正答率を4領域の内「話すこと・聞くこと」「読むこと」が上回っていた。「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、下回っていた。国語のB問題は、4領域の内「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国の平均正答率を上回っていた。「話すこと・聞くこと」は、下回っていた。

算数のA問題は、全国の平均正答率を「量と測定」「数量関係」「図形」が上回っていた。「数と計算」が下回っていた。算数の問題Bは、4領域とも全国の平均正答率を上回っていた。

【中学校領域別の全国学力調査結果について】

国語のA問題は、全国の平均正答率を4領域とも上回っていた。B問題も3領域とも上回っていた。

数学のA・B問題では、全国の平均正答率をどの領域も上回っていた。特に数学Bの関数領域は、全国の平均正答率を約7ポイント上回っていた。

④国語、算数・数学の課題（概要）

国 語

小・中学校どちらも、国語Bが全国平均正答率を上回っているが、小学校のA問題が、全国平均正答率を下回った。

平成19年度～25年度と平成26年度の6年間で全国比を比較すると、小学校A問題が1番低く、B問題が3番目に高かった。中学校のA・B問題ともに1番低かった。したがって、全体的には中学校の上回り度が小さくなっていた。

領域別には、特に以下のような課題が見られた。

【小学校】

《話すこと・聞くこと》

国語Bの1一「司会の発言の内容をまとめて書く」設問が、2.3ポイント全国平均正答率を下回っていた。目的に応じて、話合いの観点を整理することに課題がある。

《書くこと》

国語Bの2二「付箋の内容を関係付けて、野口さんのまとめを書く」設問や、2三「【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く」設問は、全国平均正答率は上回っているが、正答率が低く（正答率2二 31.7%、2三50.5%）、児童にとって難しかったようである。分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書くことに課題がある。

《読むこと》

国語Bの3二「【詩2】に対する山田さんの解釈として適切なものを選択する」設問が、3.4ポイント全国平均を下回っていた。詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題がある。

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

国語Aの1二（2）「漢字を書く」設問（例：勝利をいわう）が、全国平均正答率より7.9ポイント下回っていた。漢字の書きは、今年度もやや課題がある。

また、国語Aの2一「故事成語の使い方として適切なものを解釈する」設問（例：五十歩百歩）が、全国平均正答率を9.7ポイント下回っていた。もう一問同じ設

問（百聞は一見にしかず）があったが、こちらも全国平均正答率を7.4ポイント下回っていた。故事成語の意味と使い方を理解することに課題がある。

【中学校】

《伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項》

今年度は、漢字の読み書きの設問において全問、全国平均正答率を上回った。

国語Bの1「標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する」の設問が、全国平均正答率を4.7ポイント下回った。表現の技法について理解することに課題がある。

国語Bの2「本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する」設問が、全国平均正答率を2.0ポイント上回っているが、正答率（33.4%）であり、AB問題の全設問中最も低い正答率であった。複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることが、課題として挙げられる。

算数・数学

小・中学校どちらも、算数・数学A・Bともに全国平均正答率を上回っているが、特に中学校の全国平均正答率の上回り度は、昨年度より高い。

平成19年度～25年度と平成26年度の6年間で全国比（上回り度）を比較すると、小学校A問題（最も低い）、B問題（4番目に高い）、中学校A問題（5番目に高い）、B問題（5番目に高い）となった。したがって、昨年度より総合的な上回り度は小学校で小さくなり、中学校で大きくなった。

領域別には、特に以下のような課題が見られた。

【小学校】

《数と計算》

算数Aの2（2）「示された図を基に、青いテープの長さが白いテープの長さ（80cm）の0.4倍に当たるときの青いテープの長さを求める式を選ぶ」設問が、1.9ポイント全国平均正答率を下回っていた。割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が（基準量）×（割合）になることの理解に課題がある。

算数Bの1（2）「二人の説明を基に、 37×24 の積が888になることを書く」設問が、2.8ポイント全国平均正答率を下回っていた。示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述することに課題がある。

《図形》

算数Aの6「コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ」設問が、3.9ポイント下回っていた。作図に用いられている図形の約束や性質を理解することに課題がある。

《量と測定》

算数Bの3（3）「示された分け方でスープを分けたとき、残りの30人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く」設問が、全国平均正答率を3.3ポイント上回っているが、正答率（33.9%）であり、示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述することに課題がある。

《数量関係》

算数ABともに全問で全国平均正答率を上回っている。

【中学校】

《数と式》

数学Aの1（3）「 -7 の絶対値」設問が、2.5ポイント、1（1）「 $3/4 \div 5/6$ を計算する」設問が、1.8ポイント全国平均正答率を下回っていた。1（1）

は小学6年生の内容であり、小学校での分数の除法の計算について課題がある。

数学Bの2(1)「2つの偶数の和は偶数になることの説明を完成するために、式 $2m+2n$ を変形する」設問が、3.2ポイント全国平均正答率を下回っていた。与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することに課題がある。

《図形》

数学Aの4(3)「与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ」設問が、2.7ポイント全国平均正答率を下回っていた。図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることに課題がある。

《関数》

数学Aの設問は、全て全国平均正答率を上回っていた。数学Bの設問も、全て全国平均正答率を上回っていたが、数学Bの6(3)「兄の出発時間を変えないとき、兄の進む様子を表すグラフの両端の2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する」設問は、正答率が37.8%であった。グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することに課題がある。

《資料の活用》

数学Aの13(1)「生徒60人の通学時間の分布を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める」設問が、0.2ポイント全国平均正答率を下回っていた。度数分布から相対度数を求めることに課題がある。

(2) 学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果より

①学習状況調査について

学習状況調査		下野市	栃木県(公)	全国(公)
調査対象	小学校 12校	590人	17,592人	1,080,442人
人数内訳	中学校 4校	600人	16,799人	1,017,965人

質問数	小学校、中学校ともに74問(共通項目)
回答方法 (主に)	4つから選択 1 している(当てはまる) 2 どちらかといえば、している(当てはまる) 3 あまりしていない(どちらかといえば、当てはまらない) 4 全くしていない(当てはまらない)
質問内容	小学校、中学校ともに同じ内容 ○基本的生活習慣 ○学習時間等 ○国語、算数・数学の学習状況 ○学習に対する関心・意欲・態度 ○学校生活等 ○家庭でのコミュニケーション等 ○自尊意識・将来に関する意識 ○規範意識等 ○地域との関わり・社会に対する興味・関心 ○学習状況等

今年度の学習状況調査(児童・生徒質問紙)の結果は、小学校では74項目中15項目で全国・県平均を上回っていた。中学校では74項目中45項目で全国・県平均を上回っていた。

小・中学校とも共通して、「朝食」「新聞を読む」「ニュース番組を見る」「友達との約束を守る」「授業での話し合う活動」「算数・数学の勉強が好き」「算数・数学の問題の解法の工夫」等について、よい傾向が見られた。

②良好な面

学習状況調査の下野市の結果を全国、県と比べて、小学校中学校ともに上回っていた質問内容は、次のとおりであった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(1)※	朝食を毎日食べていますか	97.5	96.0	95.3	93.5
(12)※	普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか※2時間未満	72.2	69.6	72.9	64.5
(14)※	学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか※2時間以上	27.8	25.8	42.3	35.1
(15)※	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか※2時間以上	28.5	24.0	47.9	40.3
(16)	学習塾で勉強していますか	50.0	47.9	64.7	60.5
(33)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか	87.0	84.7	89.0	82.1
(35)	友達との約束を守っていますか	97.9	97.3	98.5	97.1
(43)	5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	87.4	84.9	94.5	75.3
(46)※	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか※難しいと思わない・どちらかといえば思わない	39.9	36.4	39.0	33.0
(47)※	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか※難しいと思わない・どちらかといえば思わない	45.1	42.3	38.5	32.7
(62)※	算数・数学の勉強は好きですか	71.9	66.1	59.7	56.6
(63)	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	93.7	92.3	86.7	82.1
(69)※	算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	81.0	79.4	73.3	67.4
(72)※	今回の算数の問題について、言葉や式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※最後まで解答を書こうと努力した	80.7	79.7	60.8	57.7

数字は、選択肢1「している」2「どちらかといえば、している」の合計
 または、選択肢1「当てはまる」2「どちらかといえば、当てはまる」の合計
 ※の質問番号は、平成25年度も上回っていた質問

③課題とされる面

学習状況調査の下野市の結果を全国及び県と比べて、小学校中学校ともに下回っていた質問内容は、次のとおりであった。

質問番号	質問事項	小学校(%)		中学校(%)	
		市	全国	市	全国
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	44.5	49.5	42.6	48.6
(21)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	63.9	71.0	45.0	46.7
(31)	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	42.0	42.5	30.2	31.2